

資料に対する委員の御意見等

(1) 資料に対する委員の御意見

資料 1 (北海道 3 エリア電源接続案件募集プロセス増強工事検討状況ほかについて)

- 現地状況の確認を踏まえて、更なる工事の効率化を図ることは理解するが、増強工事の検討に時間を要している印象。発電事業者の立場も意識しつつ、スピード感をもって検討を進めてほしい。(岩船委員)
- 増強工事にあたって土地制約がネックとなる可能性があることは理解。引き続きしっかり検討を進めてほしい。(大山委員)
- 増強工事については検討の初期段階であり、工事費が増額となる可能性があることは理解。可能な限り工事費を抑えることができるよう、引き続き様々な方策を検討して欲しい。(馬場委員)

資料 2 (港北系統における系統連系方策について)

- 提案につき特に異論はないので、提案に沿って対応を進めてほしい。(岩船委員)
- 低圧事業用発電設備へのノンファーム型接続の適用は当面の対策として有効であり、是非進めるべき。一方、電力広域的運営推進機関を中心に議論しているノンファーム型接続の制度化にあたっては、電源の新陳代謝の観点からも、既存のファーム型接続の権利が固定化されない混雑処理方法を整理すべき。(大山委員)
- 既に那珂系統で導入しているノンファーム型接続(暫定接続を含む)を港北系統にも適用するという提案と理解しており、円滑な系統連系を図るためにも進めてほしい。一方、系統混雑時に小規模かつ多数の低圧事業用発電設備について確実に出力制御ができるように状況を注視しながら進めるべき。(馬場委員)
- 港北系統で低圧事業用発電設備についてノンファーム接続を認めるという提案は合理的な提案と思う。ただし、低圧事業用発電設備のみ容易に接続できることがインセンティブとなって、低圧分割案件のような問題が生じないよう国や電力広域的運営推進機関でしっかり注視してほしい。(松村委員)

資料 3 (東北北部エリアにおける電源接続案件募集プロセスの対応について)

- 報告のとおり対応を進めてほしい。(岩船委員、大山委員、馬場委員、松村委員)

資料 4 (中三社における出力制御への対応等について)

- 提案につき特に異論はないので、提案に沿って対応を進めてほしい。(岩船委員)
- 出力制御システム構築や PCS 切替は、出力制御に備えた必要かつ適切な対応であり、中三社でも進めていくべき。(大山委員)
- 補償ルールについては、新規連系する事業者間の公平性を確保する観点から、無制限無補償ルールに移行すべき。(大山委員、馬場委員)
- 指定電気事業者制度見直しの方針については賛同。なお、中三社は他エリアの需要の受け皿となっている側面があり、その接続可能量は他エリアの影響を受けることに留意が必要。(馬場委員)
- 中三社エリアにおける再エネ連系状況等に鑑み、出力制御機能付 PCS への切替は適切。なお、中部エリアで太陽光発電が大量に入った場合、点灯帯で需給の逼迫が想定されるが、中部エリアにおける支配的事業者の小売の電気料金体系がそれに対応したものになっているか、今後報告してほしい。(松村委員)
- 大規模風力の導入が増えると調整力確保の必要性がさらに高まるが、こうした状況で揚水発電が廃止されるようなことになれば調整力確保が一層厳しくなる。揚水発電が社会的価値に見合う収益を得られるような仕組づくりを今後検討してほしい。(松村委員)

(2) 委員の御意見を踏まえた荻本座長のコメント

- 北海道電力より、北海道 3 エリアの募集プロセスについて進捗報告がなされた。スケジュール感を意識しつつ、引き続き具体的な検討を進めてほしい。
- 東京電力パワーグリッドより、港北系統における系統連系方策について提案がなされた。委員からの特段の異論はなかったことから、着実な運用を前提としつつ、本日の提案に基づく具体的な取組を進めてほしい。
- 東北電力より、東北北部募集プロセスについて進捗報告がなされた。プロセスの完了に向けて引き続き取組を進めてほしい。
- 事務局より、中三社における出力制御への対応等について提案がなされた。中三社でも系統制約等が顕在化しつつある中、出力制御を可能な限り回避するための設備形成の検討や、出力制御の運用高度化のための制御システム構築・PCS 切替等は必要であり、委員からも特段の異論はなかった。国、電力広域的運営推進機関、一般送配電事業者においては、本日の提案に基づく、具体的な検討を進めてほしい。